

【学ぶとは命を投げ出すこと】

2007年に哀しい事件がありました。

【2007年2月12日読売新聞より】

東京都板橋区の東武東上線ときわ台駅で今月6日夜、線路内に入り込んだ女性（39）を助け出そうとして電車にはねられ、意識不明の重体になっていた警視庁板橋署常盤台交番の宮本邦彦巡查部長（53）が12日、治療を受けていた同区内の病院で死亡した。同署によると、宮本巡查部長は頭の骨を折って重体となっていたが、同日午後2時25分、死亡した。

事後談によると、女性は当時無職で自殺をしようとしていたとのことでした。残された遺族である奥様は、「主人は犬死にだった…」と言ったそうです。

つまり、『死にたいと言っている人が助かり、家族のためにも、また職務を全うするという意味でも、もっと生きていたかった宮本巡查は死んでしまった。』という遺族にとって皮肉な結果に対する奥様の言葉です。

「犬死に」と言った遺族の気持ちは痛いほど分かります。ですが、本当に犬死にだったのでしょうか？宮本さんの死は無駄だったのでしょうか？

あなたの心の真ん中ではどう感じますか？

決して犬死になんかではありません。無駄だったはずがありません。あなたもそう思うはずですよ。

確かに、ドライに合理的に考えれば、死のうとしていた人を助けて、生きようとした人が死んだのだから、極めて非合理的だ。だから、死にたいと言ってる人が死ぬべきで、生きたい人が生きるべきなんだという意見が聞こえてきそうです。

しかし少なくとも、結果はどうであれ、自らの命を投げ出してまで一人の命を助けようとした宮本さんの行動は尊いものです。これは明白です。

わたし達は、合理的に、また効率を求めるが故に、命の尊さを少し見失っているのかも知れません。効率良くやる必要性は、大切な命である時間を無駄な事にできるだけ注がず、その分大切なことや重要なことにたくさん時間を注ぐためです。

大切なことや重要なことを効率良くやろうとするのは、大いに間違いです。

効率良く相手を受け入れる。効率良く景色を楽しむ。効率良く優しくする。効率良く愛する。効率良く大切にする。効率良く志を深める。効率良く命がけで臨む。

このような表現に、あなたの心の真ん中で随分と違和感が起こるはずですよ。

脳大成理論 1-2

整体の創立者である野口 晴哉（のぐち はるちか、1911年9月（明治44年） - 1976年6月22日（昭和51年）日本の整体指導者で野口整体の創始者。）は、

「一日生きたという事は、一日死んだという事です。」とっています。

わたし達は刻一刻と死に向かっています。そのような心構えで過ごすことができているでしょうか。

もしわたし達のような意識で、そのような心構えで時間を過ごしたなら、今感じているものと違う次元で感じることはできるのではないのでしょうか？

前述の宮本さんの事件から考えると、「あなたには生きる価値がある」「あなたは存在そのものに価値がある」「あなたは価値ある存在なのです」と言葉だけで言われ、その後言われた言葉と乖離した態度で接せられたとしたなら、どうでしょうか？言葉では何とでも言えます。

しかし、宮本さんのように、事実命を投げ出してあなたに接してくれたとしたなら、言葉ではなく、実際の行為で、行動で接してくれたとしたなら、「わたしには価値があるんだ」と実感するはずです。

例えば、あなたがダンゴムシの研究をしていたとします。食べる時間も寝る時間も惜しむくらい熱心に、まさに命を投げ出してダンゴムシを研究していたとします。その行為は無駄でしょうか？いえ、決して無駄ではありません。少なくともそれに情熱を持って、命を投げ出してまで注いだモノはどんなモノでも尊いものです。

また、そんな風に命を注がれたダンゴムシの方はいかがでしょうか？ダンゴムシに魂があるなら、その魂は応えようとするはずです。

何かを成し遂げたいならば、それくらいの覚悟がなければ対象は応えてくれません。

偉人や大人物であるアーティスト・芸術家は皆口を揃えて言います。

「あなたのような素晴らしい音楽家になるにはどうしたらいいですか？」

「たくさん音楽を聴くことです」

「あなたのように素晴らしい小説家になるためにはどうしたらいいですか？」

「たくさん本を読むことです」

ベタではありますが、まさにこれこそが本質なのです。つまり、効率などは考えず、最も大切な命という時間を投げ出すからこそ対象が応えてくれるのです。

まれにクライアントの中でこんな方がいます。

「ボク、セミナーを本業でやりたいんですよね～」 「どれくらい今までセミナーをやられましたか？どれくらいセミナーにご参加されたましたか？」 「いやっ、ボクあんまりセミナーとか行かないんですよよ～、セミナーもまだやったことないんですけどね～」 とこんな感じですよ。

脳大成理論 1-2

ミュージシャンになりたいと本気で思っている人が、音楽をあまり聴かないとか、楽器に触れたことがないとか、考えられますでしょうか？

また、逆な言い方をすると、わたし達は強制的に流れる時間の中で生きています。何をしても時間が過ぎていくわけですから、わたし達が過ごす時間全てが命をかけていると言えますし、命を投げ出していると言えるのです。どんな人でも、この世に生を受けた瞬間から、尊い時を刻んでいるのです。

脳科学の観点から考えると、わたし達の生命活動を担っているのは脳中枢である脳幹です。脳幹は実に様々な事を自動的にやってのけています。それは現代のどんなスーパーコンピュータでも実装不可能なほど正確であり緻密です。あなたが、どれだけ強い意志と力をもって自分で鼻と口を抑えたとしても、呼吸が苦しくなると無意識に自動的にその手を離し呼吸をしてしまいます。脳中枢がわたし達を生かそうとする力は極めて強力なのです。あなたが命を投げ出すという意識で対象に向かった時、脳中枢の「生きる力・生かす力」をもって望むことになるのです。これは極めてパワフルです。

そしてわたし達の脳は、生命維持と進化を目的としています。

進化のために必要なのは「学び」です。学びには様々な種類・側面がありますが、脳が新しい刺激や情報を受信しない限り成長しないということは明らかです。

脳にとっての優先順位としては、「学ぶ」ことよりも「生きる」ことが圧倒的に優先されます。そのような仕組みから考えると、学ぶために生きていると言っても過言ではありません。

わたし達人類は様々な過酷で厳しい環境や変化、他動物との適者生存の原理によって進化・成長し生き残ってきました。その歴史はまさに、学びとその学びの現実への適応の繰り返しだったのです。

ですので、「学ぶ」ということは、人類の進化そのものであり、生きてる理由なのです。ですから、「効率良く学ぶ」という考え方は、現代の経済社会・資本主義が生み出した命の尊さを軽んじている軽薄な思想です。

学ぶとは命を投げ出して行うことなのです。

あなたが、脳大成理論を学ぶ際に、命を投げ出して学ぶという意識で望んだ時にあなたの命は輝き、本質的に自身の未来の可能性が拓けてくるのです。そこに本当の「なりたい自分」があるのです。